

二級
私は、木造 建築士の試験（免許）を受けたいので、建築実務の経歴を下記のとおり記載し、併せてこの実務経歴書の内容が事実と相違しないことを第三者が確認したことを証する実務経歴証明書を提出します。なお、下記記載事項が真実で、かつ、正確であることを誓います。

令和〇〇年 〇〇月 〇〇日

氏名
(自署)

埼玉県知事
埼玉県指定登録機関 殿
一般社団法人埼玉建築士会会長

記

勤務先等

勤務先(部課名まで)	所在地(番地まで)	在職期間の合計	
		年月～年月	年月数
〇〇大学大学院〇〇研究科〇〇専攻	〇〇県〇〇市〇〇町〇〇丁目〇〇番地	R2年 4月～ R4年 5月	2年 2か月
在職期間		地位職名	建築実務の内容(建築士法施行規則第1条の2)
年月～年月	年月数		
R1年4月～R4年3月	2年 0月	助教	建築物に関する研究開発に関する実務
年 月～ 年 月	年 月		
年 月～ 年 月	年 月		

建築実務の詳細

建築実務経験期間の合計

2年 0か月

	対象物件の名称等	対象物件の所在地	建築実務経験期間		
			年月～年月	建築実務の割合	年月数
(1)	建築物に関する調査 または評価に関する研究	—	R3年 4月～R4年 3月	100%	1年 0か月
	実務経験の対象となる業務の内容(できるだけ具体的に 用途・構造・規模・担当業務 等) 建築物に関する調査または評価に関する研究について、△△市内の歴史的建築物の実測調査及び図面化を行い、その結果を基に第一著者として論文を執筆した。 掲載誌:〇〇学会〇〇論文集〇年〇〇号〇ページ掲載 標題:〇〇に対する〇〇について 著者名:〇〇〇〇、〇〇〇〇				
(2)	建築物の設計に関する研究	—	R2年 4月～R3年 3月	50%	0年 6か月
	実務経験の対象となる業務の内容(できるだけ具体的に 用途・構造・規模・担当業務 等) 建築物の設計に関する研究について、△△ダンパーを連層配置した高層建築物の地震応答特性を行い、その結果を基に共著者として論文執筆に携わった。 掲載誌:〇〇学会〇〇論文集〇年〇〇号〇ページ掲載 標題:〇〇に対する〇〇について 著者名:〇〇〇〇、〇〇〇〇				
(3)	建築物の設計に関する研究	—	R1年 4月～R2年 3月	50%	0年 6か月
	実務経験の対象となる業務の内容(できるだけ具体的に 用途・構造・規模・担当業務 等) 建築物の設計に関する研究について、△△施設における温熱環境の多変量解析を行い、その結果を基に共著者として論文執筆に携わった。 掲載誌:〇〇学会〇〇論文集〇年〇〇号〇ページ掲載 標題:〇〇に対する〇〇について 著者名:〇〇〇〇、〇〇〇〇				

新
最近
古

(第2面)

(4)	対象物件の名称等	対象物件の所在地	建築実務経験期間		
			年月～年月	建築実務の割合	年月数
			年 月～ 年 月	%	年 か月
	実務経験の対象となる業務の内容(できるだけ具体的に 用途・構造・規模・担当業務 等)				
(5)	対象物件の名称等	対象物件の所在地	建築実務経験期間		
			年月～年月	建築実務の割合	年月数
			年 月～ 年 月	%	年 か月
	実務経験の対象となる業務の内容(できるだけ具体的に 用途・構造・規模・担当業務 等)				
(6)	対象物件の名称等	対象物件の所在地	建築実務経験期間		
			年月～年月	建築実務の割合	年月数
			年 月～ 年 月	%	年 か月
	実務経験の対象となる業務の内容(できるだけ具体的に 用途・構造・規模・担当業務 等)				
(7)	対象物件の名称等	対象物件の所在地	建築実務経験期間		
			年月～年月	建築実務の割合	年月数
			年 月～ 年 月	%	年 か月
	実務経験の対象となる業務の内容(できるだけ具体的に 用途・構造・規模・担当業務 等)				
※経由機関記載欄		※指定登録機関記載欄			

二級

- 注意事項 1 数字は、算用数字を用い、**木造**欄は該当する方を○で囲んでください。
- 2 氏名の記載を自署で行う場合においては、押印を省略することができます。
- 3 この実務経歴書は、勤務先(自営業を含む。)ごとに作成し、今までの建築に関する実務の経歴について受験又は登録に必要な業務内容を年代順に記入してください。
- 4 記載内容に不備があった場合又は疑義が生じた場合には、再提出や追加書類の提出を求められることになり、登録が遅れる場合があります。
- 5 虚偽の実務経歴を記載した場合には、建築士法上の措置や登録が認められない場合もあります。
- 6 ※の欄は、記入しないでください。